

2013年4月1日

三鍋敏郎

以前から2万5千の地形図「美東」を眺めていると、伊吹山の裏に隠れるように存在する標高847.6mの無名峰が気になっていた。ナカニシヤ出版発行の草川敬三氏の本を見ると「板並岳」と表記されており、登山道も踏み跡程度だが存在することが分かり今回の挑戦である。



下板並集落と大久保の間を流れる、板名古川沿いの林道に車を止め、登山口を探す。山裾には獣避けの柵が巡らされて侵入出来る場所が無い。上流に向かって進むと、林道に門扉がある。それをくぐると柵が途絶えている。山裾から尾根に向かう林道があるのでそれを利用する。少し登ると稜線に出る。左手が自然林、右手が植林でやや急坂であるが、障害なく歩くことができる。前方にキンキマメザクラらしい花が咲き見頃である。

標高500m 辺りから自然林が開けた穏やかな稜線に出るが、それも東の間で再び暗い植林地を歩くことになる。自然林を歩く場合と植林地を歩く場合と疲労感が随分違う気がするの私だけだろうか？



板並岳山頂に近づくと自然林に変わり明るく開放的になる。板並岳山頂は自然林に囲まれており展望は少ないが、新緑が芽吹く前の今は僅かに伊吹山などが垣間見える。4月だというのにマンサクの花が盛りで見渡す限り、黄色の花が霞のように点在する。板並岳の三角点は実際の山頂部よりも西側に位置し、10数メートルも標高の低い場所に存在するので、芽吹き後の季節の三角点発見には注意が必要。



山頂部の北側から東に伸びる稜線上にはブナ林が残されている。マンサクも無数に点在し、咲始めのタムシバの花も手近で観察出来るのでなんだか得をしたようで嬉しい。

東に向かう稜線を暫く歩くと天空の樂園のような快適な広場に出る。少し時間は早い全員一致で昼食場所に決定。



伊吹山の雄姿とマンサクの花に囲まれて幸せな時間を過ごし、再び東に向かう。標高点723mとシブト地蔵の分岐点が判りづらく読図に苦勞する。若干の不安を抱えながら支尾根を歩くが、地蔵を祀る小さな祠が見えて一安心。この辺りから道が明瞭になる。マンサクやシロモジ、ダンコウバイ、アブラチャンなどの花々を愛でながら林道まで下る。

板名古川沿いの林道の山裾にはユリワサビやハタザオなどの花が多く、退屈する事なく林道歩きが楽しめる。

下山後は伊吹野の散策。梅園とスハマソウやキバナノアマナなどの花を見に行った。

★メンバー 他2名

★コース

下板並 8:50～569.8m8:45～板並岳 10:30～休息地 800m 付近 11:00 発 11:25～12:06 発～  
シブト分岐 12:22～シブト地藏 12:32～ボンタオ坂 12:51～板名古川 13:30～下板並 14:15

